

実習室や交流スペース 文理大、新校舎が完成

保健医学部の実習施設などを備えた
「LCMセンター」の外観＝大分市一木



【大分】 大分市一木の日本文理大で8日、本年度開設した保健医学部の実習施設、学生の交流スペースを備えた新校舎「LCMセンター」の落成式があつた。新校舎は鉄骨4階建てで、床面積は約5300平方メートル。コンセプトは「新たな繋がりと賑わい」。1階は全学部の学生が自主学習

や交流の場として自由に利用できる「ラーニングコモンズ」、カフェスペースがある。

2～4階は、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士を養成する同学部の実習室。MRIやCT、検体検査のための設備、機器の設置準備を進めており、10月から使用できるよ

うになる。

式には関係者約120人が出席した。同大を運営する学校法人文理学園の菅貞淑理事長が「学生がさまざまなお情報を出し合い、行動につなげる場として、また、先端の医療技術を習得する中で多くの人と交流を深められるように活用してほしい」とあいさつ。テープカットをした。

同大の卒業生で、落成記念に絵画を寄贈した画家の北村直登さん（大分市）も出席。絵画に込めた思いなど



新校舎の落成を祝ってテープカットをする関係者